

読響

Yomiuri
Nippon
Symphony
Orchestra



指揮 **フランソワ＝グザヴィエ・ロト**

さて、ひと暴れ。

ヤナーチエク：狂詩曲「タラス・ブーリバ」
モーツァルト：交響曲第34番 ハ長調 K. 338

ヤナーチエク：シンフォニエッタ

読売日本交響楽団 第697回 名曲シリーズ
2026年 **11月24日(火)** 19:00

サントリーホール

S ¥8,800 A ¥7,700 B ¥6,600 C ¥5,000
読売チケットセンター 0570-00-4390 (10時~19時・年中無休)

Conductor
FRANÇOIS-XAVIER ROTH
JANÁČEK: Rhapsody "Taras Bulba"
MOZART: Symphony No. 34 in C major, K. 338
JANÁČEK: Sinfonietta
YNSO Popular Series No. 697
Tue. 24 Nov. 2026, 19:00 **Suntory Hall**

主催：読売新聞社、日本テレビ放送網、読売テレビ、読売日本交響楽団

助成：文化庁文化芸術振興費補助金（舞台芸術等総合支援事業（公演創造活動））
独立行政法人日本芸術文化振興会

古典と近代。その距離を聴く

ロトが引き出す、互いを照らす3曲の対話

フランソワ＝グザヴィエ・ロトが古楽器を使ったオーケストラ「レ・シエクル(いくつかの世紀)」を設立したのは2003年。それまで主にバロックや古典派の音楽に限られていた歴史的奏法をロマン派や20世紀の作品で実践し、作曲当時の響きをよみがえらせた。

単なる懐古趣味ではない。ありのままの姿を今日の視点から探究する姿勢は、その作品の本質が現代においても輝かしい光を放つことを証明する「実験」といえる。ロトは実験に臨む科学者の慎重な手つきと、本番の舞台上で感情を爆発させる芸術家の熱狂をあわせもつ、たぐいまれな指揮者なのだ。

20世紀のヤナーチェクと18世紀のモーツァルトの組み合わせは、この人の音楽的気質を量る上で格好のプログラムだ。劇的な展開と民族精神の高揚を独自の語法で音にしたヤナーチェクの狂詩曲「タラス・ブーリバ」と「シンフォニエッタ」は、ロトがモダン・オーケストラで最もやりたいことを実現できる。

金管群のダイナミックで色彩感あふれる音色、執拗なオスティナートが生み出す推進力、作曲家の故郷モラヴィアの特徴的な音階とリズムは、今でも現代人の耳を驚かせる奇想に満ちている。徹底的な時代考証に基づく演奏で音楽界に衝撃を与えたロトにとって、20世紀初頭の音楽は探究を実践する宝庫だ。

モーツァルトはどうだろう？ 18世紀後半、ロココの典雅で洗練されたスタイルを範としつつ、新時代の息吹を求めて作曲家がウィーンへ旅立つ直前に書かれた交響曲第34番もまた、時代の変り目を映し出す。ハ長調という晴れやかな調性、金管のファンファーレに代表される祝典的な雰囲気は、およそ150年後に書かれた「シンフォニエッタ」が描き出す歓喜の渦にも通じる。

「いくつかの世紀」にまたがる人間の普遍的な感情は、時代を超えてよみがえる。これこそロトが歴史的奏法を通してめざすものだ。新たな音楽の地平をひらく一夜になることだろう。

指揮 フランソワ＝グザヴィエ・ロト

独自の音楽解釈と洗練された音楽作りで国際的に活躍するフランスの名匠。「レ・シエクル」を創立し、近現代作品をバロック楽器で演奏するスタイルで注目を浴びた。17世紀から近現代に至る幅広いレパートリーを持ち、2015年から24年まではケルン歌劇場の音楽総監督を、25年から南ドイツ放送(SWR)響の首席指揮者を務めるなど充実した音楽活動を展開している。これまでにベルリン・フィル、ロイヤル・コンセルトヘボウ管、ウィーン響、ロンドン響などと共演し、世界の聴衆を魅了している。読響には15年以来、11年ぶりの登場となる。

© Wolf-Peter Steinheisser

© Holger Talinski

読売日本交響楽団 第697回 名曲シリーズ

2026年 11月24日(火) 19時開演

サントリーホール

東京都港区赤坂1-13-1 Tel. 03-3505-1001

S ¥8,800 / A ¥7,700 / B ¥6,600 / C ¥5,000

●東京メトロ南北線「六本木一丁目」駅(3番出口)より徒歩約5分 ●東京メトロ銀座線「溜池山王」駅(13番出口)より徒歩約7分

【学生券】 学生の方は残席がある場合、¥2,000で入場できます(要学生証/25歳以下)。ただし席を選ぶことはできません。開演1時間前から受付で整理券を配布します。■都合により曲目、出演者等が一部変更される場合がございます。■ご購入いただいたチケットは、公演が中止になった場合以外でのキャンセル・払い戻しはできません。あらかじめご了承ください。■未就学児のご入場は、固くお断りいたします。

読響チケットセンター 0570-00-4390

*10時～18時・年中無休

読響チケットWEB <https://yomikyo.pia.jp/>

*座席選択可/チケット郵送料無料



プレイガイド

サントリーホールチケットセンター 0570-55-0017

読響ホームページ

<https://yomikyo.or.jp/>